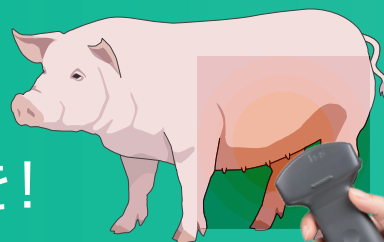


妊娠鑑定に、 高画質な超音波画像装置を！



～妊娠鑑定の場合の使い方～



高画質



- 20日で妊娠鑑定する場合、全頭の発情確認が不要になり、不受胎豚の最初(21日)の発情に種付けが間にあうことが期待できる
※人工授精日を0日でカウント
- 画像がクリアに見えるので保留の頭数が減ること、新人の技術習得が簡単にできること、NPD(非生産日数)が改善することが見込まれる

ワイヤレス/小型



- 無理な体勢での作業が減った
- ケーブルレスのため、ストール内での取り回しが良い
- 本体が軽量なため、女性スタッフも使用しやすい

※あくまでも個人の感想です

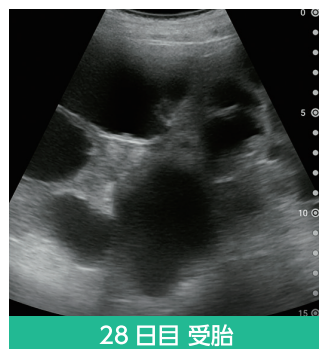
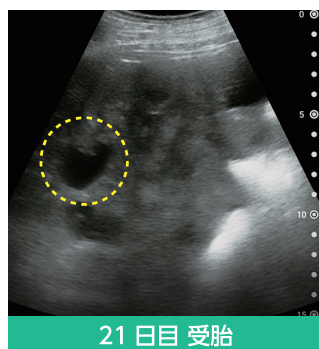
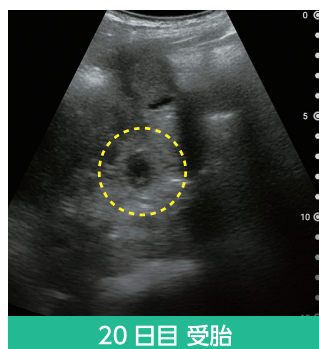
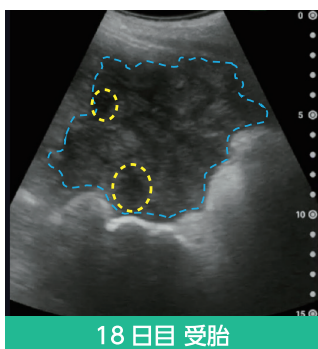


その他



- 保存した画像・動画を後からベテランの方に相談できる(新人の技術レベルアップに寄与する)
- コールセンター(受付時間 9:00-18:00[平日])があり、5年サポートプラン(1回落下保証付)もあるので、安心

Image Gallery (内にある、黒い箇所が胎囊です。)

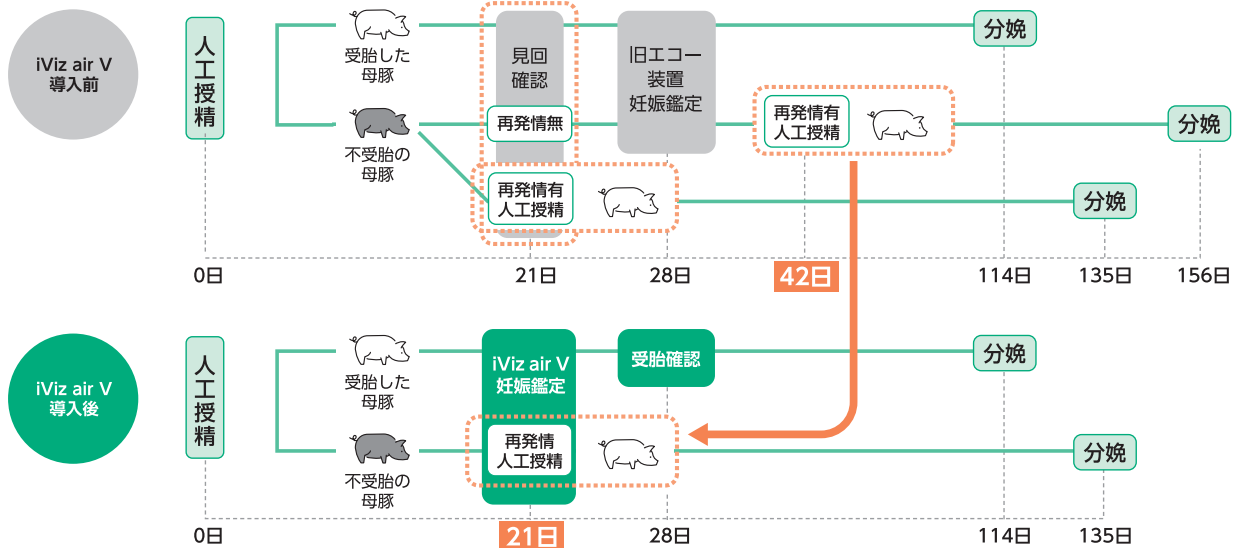


岐阜県A農場の事例：妊娠鑑定を28日から21日に変更した場合のワークフロー例



効果

- 見回り確認で再発情を確認できなかった母豚の空胎期間が42日から21日に短縮！
- 餌代の削減と産子数の増加により、年間約¥1,200,000-の経済効果（母豚500頭、再種付率10%の場合）をもたらした



(A農場の事例であり、同一の空胎期間の短縮や経済効果を保証するものではありません。)

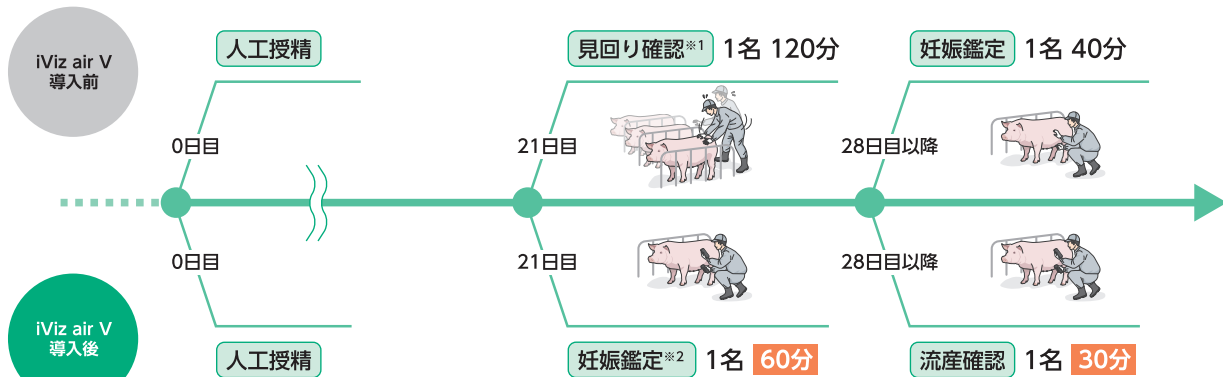
岐阜県A農場の事例：人工授精日から30日目頃の作業時間の変化例（約60頭の場合）



効果

- 導入前と比べ約70分の作業時間削減となり、残業時間削減の一助となる

※1：再発情が疑われる母豚確認のため、発情確認（陰部確認/乗駕確認/あて雄確認等）を繰り返す作業。現在は、21日で受胎確認できない母豚を移動させる一回のみ。
※2：再発の有無を予測

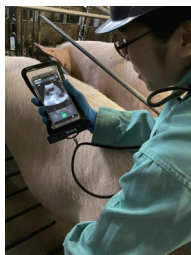


(A農場の事例であり、同一の空胎期間の短縮や経済効果を保証するものではありません。)

妊娠鑑定時のタブレット装着例



リストバンド式※3



防水ストラップ式※3

※3：市販品をご使用いただけます。

講演動画や教育動画を掲載中

生産者の方の講演動画
(ダイジェスト版)



エコー妊娠鑑定の教育動画
(ダイジェスト版)

